

## 古い世界は終わった：プーチン演説から学ぶ教訓

<http://www.informationclearinghouse.info/>

Vladimir Putin

June 17, 2022: Information Clearing House

新しい権力の中心（複数）が現れている。一極集中の世界秩序はもう帰ってこない。「植民地的な」(colonial) な考え方は失敗した——ロシア大統領ウラジミール・プーチンは、サンペテルブルグ国際経済フォーラム (SPIEF) において、金曜日、クレムリンが「極めて重要」と称する演説で語った。

<https://www.rt.com/russia/557310-putin-attends-petersburg-forum/>

### 古い世界秩序は風と共に去った

アメリカが冷戦の勝利を宣言したとき、アメリカ人は「神の地上のみ使い」 messengers of God on earth と、自分たちを定義し、神聖にして義務を伴わないと考えるべき、利得を得ている者と考えた——そうプーチンは、SPIEF において聴衆に話した。今、新しい権力の中心が現れ、その者たちは、自分自身の組織を保護し、経済的なモデルを保持し、主権 (sovereignty) に対する権利をもっている、と彼は言った。[注: 主権とは神の与える権利、その逆が主権の篡奪]

これら「真に革命的な、地殻変動的な地政学的変化、技術革新の領域での、国際的諸関係の全システムにおける地球経済」は、「基本的で中心的で厳正なものだ」と、プーチンは言った。「そして、揺れ動く変化の時代には、待っていればよい、物事はノーマルに戻るだろう、すべては元通りになるだろう、などと考えるのは間違っている。そうはならない」と言った。

### 反ロシア制裁は西洋に逆効果をもたらす

アメリカとその同盟国が、ウクライナ紛争について、ロシアを「キャンセル」する運動を始めたとき、彼らはロシアの経済と社会を、破壊し転覆させようと図った。制裁はそうはならず、逆にそれを意図した者たちへ、ブーメランのように戻り、社会的・経済的問題を悪化させ、食料や電気や燃料の価格を高騰させ、西側を通じて、しかし特にヨーロッパで、生活の質を低下させることになった。

「EU（ヨーロッパ連合）は、完全にその政治的主権を失い、その官僚的エリートたちは、誰か別の人の曲に乗ってダンスをし、誰にせよ上から与えられた命令を受け入れ、彼ら自身の人民と、彼ら自身の経済に害を与えることになった」と、プーチンは語った。

EU市民たちは、「現実から引き離された、常識に反して行われた決定」の、代価を払うだろうと彼はつけ加え、制裁による直接の損失だけでも、年に4千億ドルを超える事実を説明した。

### エネルギー代価とインフレは自ら招いたもの

西洋の高いエネルギー価格とインフレを、ロシアのせいにするということについて——：ホワイトハウスの言う「プーチンの価格引き上げ」は「馬鹿げており…読み書きのできない人々に向けられたものだ」と、ロシア大統領は言った。

「我々を悪者にするな、あなたたち自身の責任だ」とプーチンは言った。

EUは「源泉は新しくできると盲目的に信じ」、ロシアとの長期の天然ガス契約を破棄したことで、昨年、エネルギー価格の急騰という結果を導いた、とロシアの指導者は言った。その一方で、アメリカもEUも、何兆というドルやユーロを印刷することで、Covid-19パンデミックに対処するという行を行った。

### 「エリートの概念の変化」が西側を待っている

EUやアメリカの指導者たち（エリート）が取る政策は、彼らの社会の不平等や分断を悪化させるだけではない。それは、福祉という観点からだけでなく、価値やさまざまなグループの方向付けという観点からも、悪化を招いている、とプーチンは言う。

「現実からの、また社会的要求からの、そのような離脱が必然的にもたらずのは、押し寄せるポピュリズム、激化する過激な運動、変動する深刻な社会や経済、低俗化、ヨーロッパの官僚主義である」と、ロシアの指導者は言った。

### もし飢饉があるとしたら、それはロシアの罪ではない

ロシアに対するアメリカとEUの制裁——特に、肥料や穀物の輸出制限——は、ますます大きくなる地球的な食料の不安定の原因の一つである、とプーチンは指摘した。もし世界

の最貧国において飢饉が起こるならば、「それは全面的に、アメリカ政府とヨーロッパ官僚主義の、良心の問題である。」

食料供給の問題は、過去数年——数か月ではない——の間に起こったものだが、それは、「誰か他者の犠牲によって、自分の問題を解決しようとする習慣をもつ者たちの、〈近視眼的な〉行動」であり、一種の、ゆすりの的なカネの印刷による取引としての、「略奪的な植民地政策」によるものだ、とプーチンは言った。

ロシアは、飢餓の恐れが最も深刻な、アフリカや中東に食料を送る用意があるが、そこでは、西側によって課せられた「兵站的 logistical、財政的な、輸送の」障碍が最も深刻だ、と彼は言った。

## ウクライナ紛争の諸原因

ロシアが2月に、ウクライナに軍隊を送ったのは、西側がその約束を守ることを拒否したからである。「彼らとの、どんな新しい合意に達することも、全く不可能だった」と、プーチンは言った。この決定は「強制されたものだが、必要なもの」だった。それはロシアが主権国家として、ドンバスの市民と住民の、「西側の完全な保護を受けた、キエフ政府とネオ・ナチスによるジェノサイド」からの、安全と保護を保証し、これを弁護するあらゆる権利をもっていたからである。

西側は、ウクライナを「反ロシア」国家に作り変え、そこに兵器と軍事指導者を送り込むことに、何年も費やしてきた、とプーチンは言い、彼らは、ウクライナの経済や、その人民の生命には「何の関心もなかった」と指摘する。ただ彼らは、「ロシアに敵対する NATO の足場を東側に作ることに、膨大な費用をかけ、敵意と憎しみとロシア嫌いを植え付けようとしたのだ。」

「この特殊軍事作戦の目標のすべては、無条件に達成されるだろう」とプーチンは言った。

## 経済の発展は主権の表現である

21世紀においては、主権が不公平ではありえない、とプーチンは言う。その要素のすべてが等しく重要であり、互いに補い合う。そして経済はその一つである。ロシアが経済発展において従う、5つの鍵的原則がある：——開放性、自由、社会的正義、インフラストラクチャー、それに科学技術の主権である。

ロシアは、「決して自己孤立化や自給自足政策 (autarky) は取らないだろう。」そうではなく、取引を求める誰とでも、相互活動を拡張するだろう、とプーチンは言い、「多くのそのような国が存在する」とつけ加えた。モスクワはまた、私企業をも支持し、その移動インフラストラクチャーを建設し改善し、社会的不平等を減らすだろう。そしてその鍵的科学技術が、外国からの輸入に依存することのないようにする。

「現実には、主権国家は常に、平等のパートナー精神に与している」…しかし「弱くて独立できない者たちは、原則として、敵がいなか目を光らせ、外国排除を計画し、最後には、オリジナリティと独立を失って、盲目的に専制者 (overlord) に従うことになる」と、彼は言った。

### [訳者 Greatchain 注]

長くても短くてもプーチンの言葉を訳していて、必ず思うこと——それは「ああ、心がすっきりした」ということである。これは読者諸氏も同じだろうと考える。これはプーチン自身が、渦中にありながら、世界情勢の説明が正確で冷静であり、あたかも評論家の分析のように聞こえるからである。

この時点で勝負は終わっている。彼に反対する者たち、疑う者たちが何と言おうと、それは「勝負の終わり」の余興であるにすぎない。かりに、ウクライナやアメリカや NATO が、戦争の勢いを盛り返してきて、ロシアを追い詰めたとしても、それは変わらない。これは現実の戦争でなく、精神世界の勝ち負けだからである。その勝敗は決まっている。これは (何度も言うが) シェークスピアの『マクベス』の筋書きが決まっているのと同じである。

ただ「戦後処理」が問題で、誰がどういう態度を取るか、より賢明か、もしくはよりカッコ悪いかの問題が残るだろう。たとえば、ある新聞が好んで載せる署名入り記事に、JN というアメリカ人が、プーチンとロシアが、いかに無知で程度が低いかを必死に宣伝している。彼はこれに、どう後始末を付けるだろうか？ 彼だけではない。日本の記者諸君も、特に政治家諸氏も、どんな文章によって、どんな理屈を考え出すか、または全く考えないかが見ものである。

しかしこれは、誰かが恥を搔くとか、搔かせるとかではない。世界がどう変わるか、世界をどう変わらせ、我々自身がどうそれに協力するかの問題である。このプーチン演説で言われているのは、そのことで、プーチンもロシアも、誰かに謝らせるとか、責任を取らせるなどとは考えていない。

カギとなる言葉は、**主権**、すなわち**神に与えられた主権**である。その反対概念が、**篡奪**であり、主権を篡奪する者たちである。無神論や唯物論に飼いならされた者たちが、口をとがらせて抗議する時代ではなくなった。**真のエリート**とは誰のことか？ **リーダーシップ**とは何か？ それは神に協力すること、積極的に協力する者のことである。それがプーチンとロシア側の、**我々「西側」**に対するメッセージである。彼らは初めから、それを知っていたわけではない。彼らも、この愚か極まる世界について、徹底して悩み苦しむ、考え抜いたことよって、それを学ぶようになったと考えることができる。それが、エドガー・ケーシーの予言の、次の時代はロシアから起こるといふ道筋の理由だと私は考える。